

オリジナルの胡蝶蘭を求めて

シクラメンロードと呼ばれる通りを皆さんご存じでしょうか、東小学校前を東北道に突き当たるまでのその道路沿いに、町で唯一「胡蝶蘭」の栽培に取り組んでいる小久保憲一さんのお宅があります。小久保さんは第53回県花品評会で見事最高賞の知事賞に選ばれました。106点の出品数の中で、見事最高賞に選ばれた小久保憲一さんにズームアップします。

小久保さんは19歳の時からこの胡蝶蘭の栽培に取り組み、現在52歳、胡蝶蘭の栽培歴33年というベテランです。もともと家が花き栽培農家であった事で、家業を継ぐ際に「胡蝶蘭」の栽培を決心、1年間の研修期間を経て本格的に地元での栽培に挑戦したそうです。初めてのころは、人一倍苦労も多く「当時は胡蝶蘭の栽培方法が

乏しく、週に3回も知り合いの家へ出かけ研修を受けたものです」と笑って当時を振り返る。当時町内ではもちろん始めて、普及所等に尋ねても栽培の方法など皆無で、自らが情報を求め収集しないと手に入らない状況であったとのこと。「毎年が失敗の繰り返しでしたね、でも当時は少しも辛いと思わなかったですよ」とさりげなく話す小久保さんですが、胡蝶蘭に懸ける思いは相当なもの。

「今の栽培方法はさし木のような方法で同じ花（花の色）を殖やしていくのが主流なので、咲く花はすべて複製された花となり魅力がないんです、やはり種から育てて交配を繰り返しオリジナルの花を作ることが夢ですね」と胡蝶蘭に懸ける熱い思いを語ってくれました。

小久保 憲一

PROFILE

●こくぼ・けんいち

昭和29年明和町生まれ。幼いころから家業の花き栽培に興味を持ち、高校を卒業し1年の研修の後、町内で唯一の胡蝶蘭栽培を開始し現在に至る。平成17年11月の第53回県花品評会（鉢物）に自慢の胡蝶蘭を出品し、見事「知事賞」に選ばれる。

